

いしかれん だより

第28号

2001. 7

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-0064 金沢市南新保町ル3番1
石川県こころの健康センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

巻頭言

家族会と作業所



石川県に最初の精神障害者小規模作業所が設置されたのは、昭和61年です。

その後、各地域に作業所が設置され、現在15か所となっております。

利用者にとって、作業所までの通所距離に違いはあるものの、県内のすべての精神障害者が作業所を利用することが可能となりました。

この作業所づくりがあったからこそ、今日の家族会の活動があるといっても過言ではないでしょう。作業所づくりといっても、まず、場所の確保が大切です。そのため、市町村にお願いしたり、自ら探すなど大変な苦勞があったことと思いますが、それがまた、地域家族会の結束を強化し、会員の増加につながったと思われます。

さらに、小規模作業所から法定施設である授産施設へ移行するため、家族会が中心となり社会福祉法人を設立し、授産施設のほか福祉ホームや地域生活支援センターの複合施設も設置されるなど、活発に活動しております。

石川県健康福祉部障害保健福祉課

課長 林 哲夫

県では、平成8年に社会復帰施設等の整備促進を図るため、具体的な整備目標を盛り込んだ「石川障害者プラン」を策定し、整備を進めているところであります。

また、法定施設でない作業所への支援策として、運営費や通所交通費の助成を行っております。

さらに、昨年5月には、精神障害者や家族の方々の長年の念願であった、就労の場である精神障害者福祉工場が設置されており、「生活訓練の場」、「住まいの場」、「働く場」、「憩いの場」は、着実に整備されております。

これらの社会資源が障害者や家族の方々ににとって利用しやすいものとなるよう、保健所等が相談窓口になるなど、社会資源の有効な活用を図ってまいりたいと考えています。

また、平成14年度から精神障害者居宅支援事業等が市町村を中心に実施されることになっており、今後より一層、家族会や医療機関等と連携を図ってまいりたいと考えております。

終わりに、石川県精神障害者家族会連合会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

石川県精神障害者家族会連合会

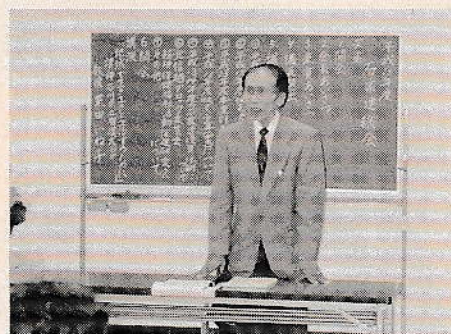
平成13年度総会開催される

平成13年6月20日、石川県こころの健康センター研修室に於いて開催されました。

来賓挨拶に続いて、石家連西出会長の挨拶があり、先日起きた大阪の児童殺傷事件に触れられました。「あの事件は精神障害者を悪用した事件で、我々は大変迷惑している」「精神障害者は危険だという偏見が一層強くならないか心配している」と、また「犯罪を犯した精神障害者には法的責任を果たさせるよう法律を改正して欲しい。そして、まじめに暮らしている精神障害者が地域で安心して生活していけるように、今後の成り行きを見守りたい」と述べられました。



議案はすべて可決され、終了後、石川県立看護大学 栗田いね子先生の講演会が開かれました。講演の要旨は右頁に記載されています。



平成13年度事業計画

- 1 常務理事会 原則として毎月第3火曜日午前
- 2 全家連評議員会 平成13年5月29日(火)
 〃 リーダー等研修会 平成13年5月30日～31日(木)
- 3 第1回理事会 平成13年5月8日(火)
- 4 臨時理事会 平成13年6月12日(火)
- 5 第2回理事会及び平成13年度総会 平成13年6月20日(水)
- 6 第3回(拡大)理事会、相互相談・援助事業研修会
 平成13年8月8日(水)
- 7 第4回理事会 平成13年9月12日(水)
- 8 平成13年度北信越ブロック研修会
 平成13年9月20日(木)～22日(土)
 会場 石川県加賀市山代温泉「ゆのくに天祥」
- 9 障害者ふれあいフェスティバル 平成13年9月23日(日)
 会場 石川県産業展示館
- 10 第34回全国精神障害者家族大会
 平成13年10月30日(火)～31日(水)
 開催地 福岡県北九州市
 リーガーロイヤル小倉、他
- 11 第5回理事会及び精神障害者家族会と病院長との懇談会
 平成13年11月7日(水)予定
- 12 第6回(拡大)理事会、第2回相互相談・援助事業研修会
 平成14年1月頃
- 13 第7回理事会 平成14年3月頃
- 14 心のふれあい講演会(県連、輪水会主催の予定)
 平成14年3月
- 15 「いしかれんだより(28号、29号、30号)」
 平成13年7月頃、11月頃
 平成14年2月頃
- 16 小規模作業所国庫補助監査 平成13年5月

平成13年度石家連予算

(収 入)

△は減

項 目	前年度予算	今年度予算	差引増減	備 考
会 費	710,000円	710,000円	0円	355人分
県補助金	300,000	300,000	0	
組織強化費	180,000	140,000	△40,000	全家連助成金
雑収入	959	1,000	41	利息等
繰越金	4,041	56,840	52,799	
計	1,195,000	1,207,840	12,840	

(支 出)

△は減

項 目	前年度予算	今年度予算	差引増減	備 考
事 務 費	130,000円	140,000円	10,000円	事務費、郵送料、手数料
会 議 費	90,000	90,000	0	会場費、生花、看板、弁当
人 件 費	57,300	57,300	0	5,730×10日
事業費	500,000	600,000	100,000	旅費、研修会、講演会
会報費	150,000	160,000	10,000	たよりの発行
小 計	650,000	760,000	110,000	
分担金	245,000	110,000	△135,000	北信越研修、全国大会負担
予備費	22,700	50,540	27,840	
計	1,195,000	1,207,840	12,840	

「地域で生き生きと生活するために」

石川県立看護大学 栗田いね子氏講演より

本人を対象にした「生活満足度調査」の結果を中心に、地域で生活するために大切なことについてお話しくださいました。

この調査は、生活満足度スケールをもとに、県内の作業所に通っている方や複合型社会復帰施設にいる方、169名一人ひとり面接して行ったものです。主観的満足度を数値化して考察を加えるという研究はほとんどなく貴重なものです。結果は、

※障害年金や生活保護で収入の保障のある人は、家族の収入に頼る人よりも生活満足度が高い。

※困った時、相談できる人が3人以上いる人は0～2人の人より、生活満足度が高い。

※2カ所以上の利用資源を持っている人は、1カ所のみを利用している人より生活満足度が高い。

※病名を精神分裂病と答えた人はそれ以外の病名を答えた人に比べて、生活満足度が低い。（病気の特徴から、対人関係や社会生活技能面での満足度が低い）などが明らかになりました。

また、お金が足りない、働きたい、疲れ易い、頭が痛い、胃の調子が悪い、各種の手続きをどうしてよいかわからない、対人関係に悩んでいる、プログラムがきついなどたくさんの意見が寄せられたとのこと。

この結果をもとに、家族の皆で考えたいこととして「今の姿を認める」ことの大切さを話されました。家族は先のことを求めるあまり、今の姿を認めようとしない。

苦しんだり現実離れしている姿を見ると、本人の意見を聞くのは無理ではないかと思いがちになる。そして、「行ってほしい」という家族の気持ちが、「行くのがあたりまえ」



→「行きなさい」という言い方をしてしまう。決め付けたり、指図をしてしまう傾向がある。本人の意見や感じ方を聞く・話すというチャンスが家庭生活の中にたくさんあるといい。

また、人とのつながりを増やし、雑談できる人・相談できる人がいることが大切。病院では、看護婦に相談するよりも、気心の知れた患者同士の方がよく助言しあっている。病気の友達はとても大事である。家族のバックアップがあって交友関係も安定する。

病気は治ってしまうことを考えない方がよい。良い状態を保つようにする。ストレスがかかってきた時に、ここで薬を飲もうとか、注射をしてもらおうとか判ってくる。本人が一番良く判断できる。自分でコントロールし、早めに気づいて対処できるようになってくる。

面接調査をして、本人のストレスになったのでは…と心配したがそのようなことはなく、一生懸命に、自分の気持ちや意見を言ってくれた。そのこと自体が良かったのではないかと。本人の意見を聞く機会がもっと必要なのではないかという指摘がありました。

これからの精神障害者の地域支援をどうしていったらよいか、示唆に富んだお話でした。
(文責 浦田節子)

みそぎ会活動報告

親なき後 当事者が地域で安心して暮せるように

みそぎ会一年の歩み

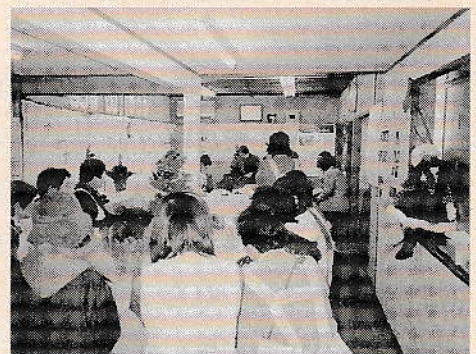
- ・定例会は第3水曜日、隔月ごとに開いています。
- 一人でも多くの会員の出席を願って、前日に電話をかけ、出席を呼びかけています。

定例会以外の活動 —H12年度—

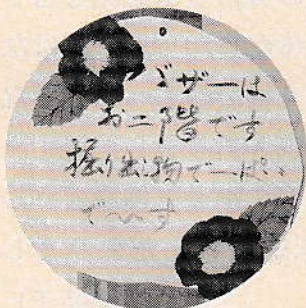
- 7月・手帳サービス拡大に向けての署名運動
 - ・作業所と合同で施設見学。得るものが沢山ありました。
 - ・ワークショップ野の花の移転問題があつて1市6町陳情・要望（4月～11月）
- 9月・北信越ブロック研修会には、昨年より参加者が倍増
- 10月～12月・病院文化祭、障害者フェスタ、野の花まつり等に、バザーを開かせていただきました。
- 11月・広域圏議会で「ワークショップ野の花」移転問題を議員さんが質問するとの情報が入り、傍聴に参加。市より現在地を引き続き2年お借りすることが出来ました。



- 12月・作業所5周年記念行事を行う。行政の方、ボランティア、地域の方、家族等参加。PRにもなり、楽しい一日でした。



- H13年3月・作業所職員と家族の親睦会を行う。行政の方々も見えられ、いろんな意見が出て有意義な一時を過ごしました。



今後の課題として

- ・会員数をいかに増やすか。
- ・「親なき後当事者が地域で安心して暮らせるよう」話し合っていきたいと思っています。

事務局 七尾市府中町ソ27-9 能登中部保健福祉センター内

地域で暮らしているユーザーの声

入院していた過去のことを忘れて将来への夢

ペンネーム 離れ島の代打ち

僕は高校3年の6月頃、精神分裂病になりさらにその年の8月18日の午後9時15分頃、ショックを与えられて関係妄想とうつ病になりました。その時受験生だったので、約1年間薬も飲まずほったらかしにしておきました。昭和62年の6月に病院に入院して分裂病は治って、退院したのですが、またすぐ12月に病院に入れられました。病院には計4回入院しました。最初の入院時の主治医はしぶとい先生でした。強い粉薬を飲まされていて20才の時たばこを吸ったら胃炎になりました。今でも胃薬を飲んでもずっと胸がすっきりしません。病院にいた20、21才の頃が一番辛かったです。

現在、精神安定剤と胃薬をもらって飲んで

いますが早く胃を治したいです。あと体重を軽くしたいと思っています。今、午前中作業所に通って、夜は大学に行っています。来年卒業の予定です。学校では経済学の基礎や法律関係のことや英語の文章を訳す授業があります。

僕は将来、探偵になりたいです。自分に向いているかと思っているからです。本当は刑事になりたいかったけど年齢オーバーで無理だと思います。もし探偵事務所に入れたらそこで10年くらい修行して自分の家に探偵事務所を建てたいです。僕は諸星和己と堂本光一に似ています。



病 気 と 闘 っ た 私 の 半 生

クリエイションけやき 吉 田 修

自分は、18歳の時精神病を発病した。大学進学を諦めきれず、無理して入学した。通学中薬の副作用が怖くて、薬を中断して再入院した。卒業後、教職を断念して民間会社にかろうじて入った。その後、病気を隠しながらの転職生活が始まった。

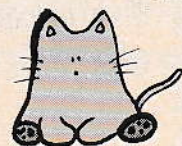
薬の副作用のせいか、ともかく眠たかった。また、表面はともかく心理的に常に孤独だった。父は「人間の屑」と言い、母は縁談をいろいろ持ってきたが、片端から断られた。

あるきっかけから保健所のデイケアを知り、通い始めた。40歳になっていた。デイケアは楽しかった。何よりも、同じ病の

人達と一緒に過ごすのは構えもいらず気楽だった。

父の死がきっかけで20年ぶりに再入院した。前の入院のとき知り合った人がしわだらけで無気力になっていた姿をみて、「こんな姿にだけはなりたくない」と思った。

退院後、家の近くに作業所が出来ていたので通うことにした。この作業所が大変ありがたかった。作業があり、仲間と触れあえ、レクリエーションもあり、今、充実した日々を送っている。今はこの作業所を有効に活用し、当面の課題を一つずつ克服していきたい。



「北信越ブロック研修会」準備は順調に進んでいます。(7月23日現在)

3月以来5回の実行委員会を経て、開催要綱・プログラム・参加申し込み等のご案内を関係機関に送付致しました。

参加申し込み先は旅行業者「西日本旅客鉄道JR小松駅」です。

みなさまのお手元にも、開催要綱等が届いていると思いますが、充実した内容がいっぱいです。この機会に誘い合わせて一人でも多く参加しましょう。

締切は8月3日です。

現在、役割分担、アトラクション等が検討されていますが、いよいよ家族会のみなさまの活躍の場です。楽しみつつ、がんばりましょう。

トピックス

手帳サービス拡大請願署名運動

平成11年5月、手帳サービス拡大にむけた国会請願第1弾として、100万人分の署名請願書を各都道府県連の地元国会議員を通じて、国会に提出しました。また、平成13年5月に第2弾の請願署名53万人余を国会に提出しました。

請願の要旨は

- (1) 手帳サービスの障害別格差を早急に解消してください。
 - (2) 国は、JR等の身体障害者、知的障害者への交通運賃割引制度を精神障害者にも適用するよう、強力に指導し、実現をはかってください。
- というものでした。この請願署名活動にご協力くださったさまざまな方の努力が実を結ぶことを願い、今後のなりゆきを見守りたいと思います。

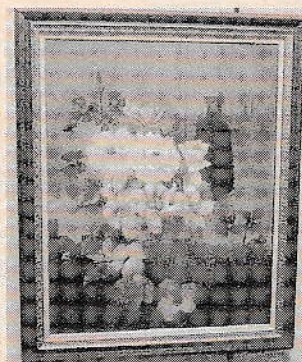
第1回全国こころの美術展開催

石川県 なごみの郷 太田直志さん

銀賞おめでとうございます

こころの美術展は平成13年3月東京国際フォーラムで開催され、1,000人を超える入場者がありました。銀賞受賞作の「夢見るバラ」は現在なごみの郷の玄関に飾ってあります。

第2回からは3障害合同で開催されるそうです。



銀賞 夢見るバラ

*** 編集後記 ***

○ 9月の北信越大会で、精神障害者の地域支援の輪が一まわり大きくなることを願いつつ…。

(浦田)

○ 今回は、作業所へ通っておられる2名の方に原稿をお願いしました。この人達の前向きでユニークな考えに、将来の明るさを感じます。

(紺谷)